

令和4年度 自己評価書

学校名

北海道登別青嶺高等学校

1 本年度の重点目標(スクールミッション)

- (1) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成
- (2) 地域唯一の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成
- (3) 自他を尊重し思いやりの心をもち、義務と責任を重んじる確に判断し、主体的に行動できる生徒の育成

2 自己評価結果及び改善方策

評価項目・指標等			達成状況	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目		
教育課程・学習指導	教育課程	生徒の実態に即した教育課程編成	B	今年度の1年次生より新学習指導要領に切り替わった。次年度以降年次進行で進んでいくため、生徒の様子に注目していきたい。
	学力向上	基礎・基本を大切にする指導	C	学期の始めや試験の前に「教務だより」を発行し家庭学習が定着するように啓発した。また、朝読書・朝学習の継続により、学習習慣の定着を図り、家庭学習の定着へ働きかけている。
		家庭学習の促進など学習習慣の定着を図る取組の促進	D	基礎基本を大切にする指導については先生方に浸透しているため、次年度も継続していく。
		朝読書や朝学習など朝の時間の有効活用	A	概ね整然と授業が行われている。授業の中で生徒自身が主体的に学ぶ意識を高める授業改善をしている科目が増えている。さらなる興味・関心を持つ教材・授業展開の工夫が必要である。
	授業改善	授業規律の確立	A	「じもと学」において、登別市、議会、商工会議所、地元企業等と連携を図りながら進めてきた。次年度以降も連携を密にして進めていきたい。
		言語活動の充実や問題解決的な学習	B	1年次生から一人1台端末を持つようになり、授業やホームルームで活用されている。次年度以降も積極的な活用が求められるため、教員個々の研修が必要である。
		観点別評価など評価の工夫	B	
		学ぶ意欲を喚起する学習指導の工夫	C	
ICTの活用など学習指導の工夫	A			
生徒指導	規範意識	規範意識が涵養される生徒指導の推進	B	休み時間でのタブレットの使用について教務部と連携してルール作りを進めていく必要がある。スマホについても今までの預かり指導から自己管理に移したが、大きなトラブルもなく次年度も継続していく。
		スマートフォン等の自己管理	C	
	自主的主体的活動	活発な生徒会活動	A	今年度は昨年度に比べると学校行事やボランティア活動に積極的な生徒が増えてきて、生き生きと活動している。次年度も継続していきたい。生徒数の割に部活動の数が多く、部活動の精選に課題がある。現状を十分に把握し、改善を図る必要がある。
		地域行事への参加やボランティア活動の推進	A	
		部活動の充実・活性化	C	
	いじめ	いじめ防止に関する適切な啓発及び対策	C	日頃からの校内巡視により生徒観察を重視している。さらにはいじめ対策委員会を必要に応じて開催し、組織的に対応する。
進路指導	進路実現	上位層の学力伸長に係る取組の推進	C	講習や週末課題の添削等により継続指導を行う。また、授業を中心とした学習環境の向上を図る。
	キャリア教育の推進と進路情報提供	保護者に対する十分な進路情報の提供	C	ホームページや配信メールを活用して、スピード感を持って更新に努める。
		生徒との進路にかかる個別相談の充実	A	教職員の評価も高く、継続して実施する。
		系統的進路指導の推進	C	進路指導部と年次主任の連携を強化し、「総合的な探究の時間」との関連を図る。
健康安全指導	心身の健康	生徒全員の個別面談の実施と教育相談活動の充実	A	「ハナハ-Q-U」の検査結果を分析し、教育相談へと結びつけるとともに、引き続きスクールカウンセラーの活用を図る。
		スクールカウンセラーの活用による教育相談機能の強化・充実	A	
		特別支援教育への理解の促進	C	教職員で情報の共有並びに研修の充実を図る。
	美化活動	校舎内外の清掃・環境整備	C	生徒への美化活動の意識付けを図る。
	防災	生徒の主体的行動を高める防災意識の涵養	B	異校種の取組を参考によりよい方策のため改善を図る。
信頼される学校づくり	地域連携とPTA活動の活性化	PTA便り・各種通信・HP・ラインスクールなど発信の強化	A	今年度も市内の中学校を訪問したことで中学校との距離を大きく近づけることができた。コロナ禍にあり部活動の交流を図ることができなかったが、リモートによる授業見学を通して交流を深めることができた。次年度も継続していきたい。
		地元中学校との情報交換、部活動などの交流	C	コロナの影響もあるが、次年度は地域との距離を近づけ、本校を知ってもらうとともに新たな科目「じもと学」を通して地域で生徒を育てる学校づくりを進める。
		コロナ禍で活動が難しい中「PTAだより」の作成など活動の継続	B	コロナの影響により、参加できなかった行事もあり、次年度は例年通り協力を頂きたい。
組織運営	教職員の連携強化	教職員の学校経営参画意識を持った主体的取組の前進	D	コロナ禍にあり、ICTを活用した授業など新たなことへチャレンジする雰囲気が出てきている。また、新たな科目「じもと学」の準備により、意欲的に活動している教員が増えている。よりいっそうの声をかけを図る。
		教職員同士の意思の疎通と組織的運営	D	書類による適切な引き継ぎが重要であるため、各担当者に徹底していく。また、コミュニケーション不足によって、情報の共有化がなされない場面が多く、次年度に向けて、情報発信と確認作業の徹底を図る。
		的確な反省引き継ぎなど事業・行事実施後の成果と課題の把握	D	
		教育課題や教育情報の共有化と共通認識の促進	D	
資質向上		校外での研修への参加と積極的な教科内研修の実施	D	積極的に研修する教員が増えている。ただ研修で得た情報を全教員での共有に至っていない。次年度は情報の共有方法を模索する。
働き方改革		「働き方改革」に係る教職員の意識改革や学校運営の工夫改善	D	働き方改革についてはなかなか進まないのが現状である。コロナ対策、多様な生徒に対する指導など教職員の頑張りや生徒の進路実現につながっている。次年度以降制度の活用により働き方改革を進めていく。
新型コロナウイルス感染症対策		生徒に対し適切な指導	A	養護教諭を中心に換気の仕方や密を回避する行動の重要性が保健だよりを通して、生徒に周知している。次年度は新型コロナウイルス感染症の扱いが大きく変わらうとしているため、情報を精査し、対応の検討を速やかに行う。
		消毒・換気作業などの対策	A	
		職員間での情報共有	A	

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・次年度入学生への教育課程の編成について教育課程委員会を中心に進めてきた。今後は次年度の生徒の様子を踏まえ、今後入学してくる生徒の状況を把握しながら、見直しを進める。
- ・スマートフォンの預かり指導については今年度より生徒自身の管理に任せるようにした。授業中の私的な使用はほとんど無く、生徒自身は自己管理をできていると評価している。
- ・進路指導については国立大学への進学を含め成果を上げているが、今後しっかりとしたキャリア教育を進めていく上で、地域との連携が不可欠となるため、学校運営協議会と連携して地域の教育力の活用を検討する。